

● 伝統芸能体験 [会場]1階円形ホール

落語	<p>ちちばやみんた (一社)落語協会所属 福岡県北九州市出身 橋家文太 2014年に三代目橋家文蔵に入門。2020年にニツ目に昇進し、「文太」に改名。 落語界では珍しく地方を拠点として活動し、自ら製作した「落語car」で出張落語を開催中。</p>
三味線	<p>ふじのたま 藤本流大師範 福岡藤本会副総理事 佐恵の会 主宰 6歳より藤本流三味線を学び、昭和60年に藤本流の名取となり、平成18年に大師範となりました。 現在は自宅や公民館で指導をしながら、ジャズとコラボレーションしたコンサートにも参加しています。</p>
能楽	<p>もりたみつ 森田光次 能楽師 笛方 森田流 公益社団法人能楽協会正会員九州支部所属 一般社団法人日本能楽会会員(重要無形文化財総合認定保持者) 平成7年大阪で森田流職分家 野口傳之輔に入門し、同年能「岩船」にて初舞台。 現在は九州を中心に舞台、お稽古、体験教室、子ども能楽教室等で活動しています。</p>

● 伝統工芸体験 [会場]1階コミュニケーションエリア・2階メッセージホワイエ

小石原焼	<p>マルワ窯 刷毛でつけた模様の特徴の小石原焼は350年以上続く伝統工芸品です。 マルワ窯は、伝統技術を生かしながらオリジナルを加えて、明るく鮮やかな色や形を生み出しているのが特徴です。</p>
柳川まり	<p>やなぎわ 柳川伝承まり・さげもん研究会 柳川地域に古くから伝わる、女の子の初節句のひな壇飾りである「さげもん」に欠かせない細工のひとつです。 研究会では今も変わらぬ技法で現代に受け継ぎ、世界に広く発信しています。</p>
博多張子	<p>はかたはりこし みよしゆみこ 博多張子師 三好由美子 江戸時代から伝えられ、木製や石膏型に和紙などを重ね張りして作る博多張子。 その技術を今に伝え、福岡市内の公共施設で制作実演を行っています。</p>
博多人形	<p>はかたにんぎょう 博多人形商業協同組合 白くてきめ細かな肌の特徴の博多人形。歴史ある伝統を守り、発展させることを目的としています。 今は次世代の博多人形師の誕生を目指した「博多人形育成塾」を福岡市と共に実施しています。</p>
博多織	<p>でんとうこうげいし おかべゆきこ 伝統工芸士 岡部由紀子 約780年前に中国から伝えられた技術を元に発展し、仏具を園藝化した献上柄の模様が特徴の博多織。 その伝統的な博多織の帯を手織りで制作し、女性らしい色合いやモチーフで作品作りをしています。</p>
大川組子	<p>おおかわぐみこ 淡屋 約300年の歴史があり200以上の図柄の組木を組合わせて作る大川組子。 その伝統技術を江戸時代から受け継ぎ、7代にわたって伝えています。</p>
博多水引	<p>はかたみずひき ながさわ結納店 約50年程前の結納品の水引職人から始まった博多水引。二代目より現代の生活に合わせた独自の色合いやデザインで表現された水引細工は、国内外から注目が高く人気を呼んでいます。</p>

● アート体験 [会場]2階交流ギャラリー

ガラスアート	<p>ガラス アトリエ リン Glass atelier Lin 宗像市に工房を構え、ガラスアクセサリや小物を制作し活動中。 女性らしい可愛いモチーフや、デザインは子どもから大人まで人気があり、多くのワークショップもを行っています。</p>
ニャンドゥティ	<p>ナイメント カラー Silent Color 南米の国「ブラジルの伝統工芸のレース編み「ニャンドゥティ」。モチーフは約350種類以上もあり、それぞれに意味があると言われています。 2014年にニャンドゥティと出会い、そのカラフルさと楽しさに魅了され2016年から教室を開き、糸島市を拠点に活動しています。</p>
こけ玉作り	<p>COKEBON コケボン 草花や樹木の苗を土で覆ってこけを貼り付けて作るこけ玉。子どもから大人までこけや盆栽の魅力を伝えるため、盆栽教室やワークショップを多く開催しています。日本盆栽協会会員、造園技能士。</p>



夏休み こども 文化体験マルシェ

2024年 8月2日(金)～4日

10:00～18:00(最終日17:00まで)

会場 アクロス福岡 | 1階円形ホール、コミュニケーションエリア
2階交流ギャラリー、メッセージホワイエ

参加
無料

※体験は有料

